

パブリックコメント
「豊田市山村地域の持続的発展及び都市と山村の共生に関する計画
－（仮称）おいでん・さんそんプランー基本計画（案）」における
意見募集結果の公表

- 意見通数
6通15件

- 意見の内訳
総数で15件の意見等があり、項目ごとに分類しました。

分類		意見件数
計画全体について		4件
まちづくりの基本的な考え方について		1件
土地利用の基本方針と考え方について		2件
取組方針に ついて	取組方針1 山村地域に愛着を持つ次世代を育てる	3件
	取組方針2 住みたくなる山村地域をつくる	2件
	取組方針3 山村地域の産業を守り、育てる	2件
	取組方針4 幸せに暮らせる支え合いの山村地域をつくる	0件
	取組方針5 戦略的なマーケティングに基づき、山村の価値を高め伝える	1件

- 寄せられた意見に対する豊田市の考え方
 ※意見等の概要は、主旨を損なわない範囲でいただいた意見を集約及び要約しています。
 また、感想等を除く意見に対して、市の考え方を示しています。
- その他
 ・本計画は、提出いただいたご意見を参考に、令和8年3月までにまとめる予定です。

(1) 計画全体について

意見等の概要	豊田市の考え方
<p>基本計画が抽象的な内容であるため、具体的な中身がわからないが、当事者や関係者が多く混じらないと空想の計画になってしまうと考える。</p>	<p>次期プランでは、基本計画に基づき、具体的な取組内容をまとめた実行計画を策定し、各種取組を進めてまいります。その推進にあたっては、行政のみならず、地域を始め、企業や活動団体などの多様な主体との共働により各種取組を進めていく必要があるため、次期プランが目指す姿や基本的な考え方等をしっかりと共有し、様々な主体に関わっていただきながら連携して取り組んでいきます。</p>
<p>山村地域の将来人口推計をはじめ、数値の悪化から、施策の集合としてのパワー不足が否めない。「+1（ぷらすわん）」を誰がどのように発案し、実施するかが重要だと考える。行政は「+1」が発案され、力強く実施される環境づくりと支援が必要だと思ふ。</p>	<p>「+1」の取組は、既存の好事例の取組だけではなく、それを深化させたり、新たに生み出すことも「+1」として捉えています。こうした「+1」の取組を山村地域全体に広げていくためには、行政のみならず、地域、企業、活動団体などの主体的な取組が必要です。取組事例の情報共有や主体同士で学び合う機会を創出するなど、それぞれの主体が工夫を凝らして実践できるよう取組を進めていきます。</p>
<p>取組方針では、「こども目線」「関係人口」「生業・居住先・コミュニティのセット」「産業の維持育成」「幸せに暮らせる」「山村の価値向上とマーケティング」の視点がバランス良く入っていると感じる。ここに「+1」の取り組みを乗せることで、将来像を実現してもらいたい。「+1」を誰が発案し実行していくかを具体的に描けるか？そのためには行政は何をすれば良いのかがポイントだと思ふ、この「+1」をしっかりと発動させることができるかに次期おいでん・さんそんプラン基本計画の成否がかかっていると思ふ。</p>	<p>次期プランの推進にあたっては、行政だけではなく、地域、企業、活動団体など、多様な主体との連携を図りながらまちづくりを進める必要があります。行政は、様々な主体が地域事情に応じて積極的に取り組めるよう、取組事例の情報提供や主体同士が学び合う機会を設けるなど、取り組むきっかけづくりを進めるほか、実践への助言などの必要な支援を行います。また、新たな取組については、モデル地域での実証結果を踏まえて他の地域への展開を進めるなど、様々な主体と連携して「+1」の取組を山村地域全体に広げていきます。</p>

意見等の概要	豊田市の考え方
<p>今回の計画期間に、人口は減少し一部ではサービスの低下があるかもしれない。しかし、住んでいる人が望むような暮らしが可能で、幸せな毎日を送れ、将来に対しても不安を感じないような山村地域が形成されることを期待する。</p>	<p>「コミュニティ機能の維持」は、次期プランの重要な視点として捉えており、人口減少が進む中でも住民一人ひとりが地域とつながり、地域全体で支え合うことができる環境づくりを進めていく必要があると考えております。次期プラン実行計画には、取組方針4「幸せに暮らせる支え合いの山村地域をつくる」に関連する取組を位置付け、社会環境の変化に対応したコミュニティ機能維持や暮らしに必要なサービスを公民連携により提供していく取組など、暮らしの不安が少しでも解消できるような取組を進めていきます。</p>

(2) まちづくりの基本的な考え方について

意見等の概要	豊田市の考え方
<p>地域、地区それぞれの魅力や資源を磨き上げるだけでなく、新規に発掘する必要がある。</p>	<p>次期プランでは、山村地域それぞれが持つ魅力や資源を磨き上げるだけでなく、地元の人では気が付かない新たな魅力を見つけ出し、発信することも重要な視点だと考えております。次期プラン実行計画には、取組方針5「戦略的なマーケティングに基づき、山村の価値を高め伝える」に関連する取組を位置付け、それぞれの地域の「価値（押しポイント）」となる特徴的な暮らしの魅力の発掘に向け、必要な取組を進めていきます。</p>

(3) 土地利用の基本方針と考え方について

意見等の概要	豊田市の考え方
<p>既存施策である「がけ地近接等危険住宅移転事業」では、都市部など山村地域外への転出を促進するので、山村地域内の居住促進地域への誘導を図る施策が合わせて必要となり、上乘せ補助などの新たな施策が必要かと思う。</p>	<p>次期プランでは、地域内の住み替えを含む移住・定住を特に誘導する場所として設定していた「居住促進地区」を見直しました。この見直しに合わせて、住宅取得や空き家活用などの支援制度を拡充するほか、居住誘導のための施策を新たに実施することで、インフラのある安全な場所への移住・定住を更に</p>

意見等の概要	豊田市の考え方
	促進していきます。
<p>居住促進地区である生活拠点に誘導することは、住民目線で生活やコミュニティの再編につながることを理解して進めないとうまく進まない。災害移住の事例では、いつも顔を合わせる「ご近所さん」や、毎日の生活の一部になっている「畑仕事」を奪われた高齢者の姿を見ると、単に生活利便な生活拠点が住む価値が高いとは言い難いことを証明しており、このことに目を向けた施策の誘導がないと、地域内の転居も進まないと感じる。</p>	<p>居住促進地区は、当該地区外に住む全ての住民に対して移転を強制するものではなく、地域内の住み替えを含む移住・定住の居住を特に誘導する場所として設定するものです。インフラのある安全な場所への移住・定住を更に促進することで、コミュニティ維持を図ります。</p>

(4) 取組方針について

取組方針 1 山村地域に愛着を持つ次世代を育てる

意見等の概要	豊田市の考え方
<p>取組方針に「山村地域と都市のつながりを増やす」を追加し、関係人口の創出・拡大をしっかりと入れる必要がある。</p>	<p>取組方針 1 に関連する施策として「都市と山村の交流の創出」の取組を位置付けて進めていきます。山村地域に様々な形で興味や関わりを持つ都市部の市民を増やすことを目指し、都市と山村の交流機会を増やし関係人口の創出・拡大を図ります。</p>
<p>山村地域で子育てをしているが、子どもにとって都市部との教育格差・さまざまな機会格差が大きすぎる。これを少しでも解消するために日々子どもたち同士が交流し、子どものうちにさまざまな体験ができるような機会をつくり、格差を是正してほしい。</p>	<p>取組方針 1 に関連する施策として「こどもや若者の地域参加とネットワーク形成の機会づくり」の取組を位置付けて、こどもや若者が地域と関わり続ける基盤づくりとして、地域行事やまちづくりの場に参加しやすい機会を整えます。また、山村の暮らしや自然・文化・歴史などを題材にした地元を学び、再発見する都市部にはない「山村ならではの学び」として、関連する取組を位置付けて進めていきます。</p>
<p>取組方針 1 の施策「山村ならではの学びと場の提供」とあるが、セカンドスクールなどイベント的な取り組みだけでなく、日常の学校において、山村ならではの学びは地</p>	<p>取組方針 1 に関連する施策として、学校、地域、団体と連携して地域に根差した学びの機会を創出するとともに、こどもや若者が地域活動やまちづくりに関わる機会を創出して</p>

意見等の概要	豊田市の考え方
域住民を巻き込んで作り出すことが必要ではないか。子育て世帯が、教育移住したくなる教育に取り組み、発信していくべきと考える。	いきます。また、こうした山村地域ならではの学びの取組を都市部にはない魅力の一つとし、子育て世代をターゲットした効果的な情報発信にも努めていきます。

取組方針 2 住みたくなる山村地域をつくる

意見等の概要	豊田市の考え方
取組方針 2「住みたくなる、住み続けたくなる地域」がどういうものなのか、地域と共有しながら進める必要がある。また、他の取組方針も含め、当事者意識を持って取り組むために、地域会議だけでなく、もっと多く住民が話し合う場・機会をつくる必要があると考える。	持続可能なまちづくりを進めるためには、性別を問わず多様な世代の参加による話し合いの機会を設けることは、当事者意識を持っていただくためにも重要だと考えており、引き続き、様々な機会を捉えて一緒に地域の将来を考える機会を増やしていきたいと考えます。とりわけ、今後の山村地域の担い手となるこども・若者と意見交換の場を設けるなど、多くの住民が当事者意識を持つことのできる機会創出に努めていきます。
本計画に、ますます高度に発達する情報化とそのインフラ整備に触れていない点が不足していると感じる。都市部も山村も同じスピードでIT化を進めて、山村地域でもできる仕事の選択肢を増やすことや、農林業などのDX化を進める選択肢も、若い世代のために残しておくべきだと感じる。情報通信もインフラの一つであるが、採算性の低い山村地域には民間通信企業の努力だけでは進んでいかないと感じる。	取組方針 2に関連する施策として「交通インフラとデジタルインフラの維持・確保」を位置付けて必要な取組を進めていきます。行政手続きなどのデジタル化を推進するとともに、民間事業者とも連携しながら必要な情報通信環境の確保に努めていきます。

取組方針 3 山村地域の産業を守り、育てる

意見等の概要	豊田市の考え方
地域によっては生活に必要なものを地区内で購入することができない現状である。商業施設の誘致について現段階で計画はあるのか。	商業施設の立地は、民間企業の経営判断によるところが大きく、現時点で山村地域への商業施設の誘致に関する本市の計画はありません。 一方で、高齢化の進行や運転免許の自主返納などにより、買い物に不便を感じる方の増加

意見等の概要	豊田市の考え方
	が見込まれております。このため、移動販売を行う事業者や社会福祉協議会、地域の各支所と協議、連携を図りながら、地域の実情に応じた買い物困難者対策を検討し、段階的に進めていきます。
農林業の持続化に向けどのような取組を行うのか。得られる所得が不十分であれば若者、子育て世帯の移住定住は見込めず、山村部の人口減や高齢化の改善を図ることは難しいと考える。	ご指摘のとおり、農林業で安定した所得が確保できなければ、若者や子育て世帯の移住・定住は進まないと認識しております。そのため次期プランでは、新規就農・就業者への支援、農林産物の高付加価値化と販路拡大、スマート技術導入による生産性向上、森林資源の活用促進などにより、所得向上と経営の安定化を図っていきます。

取組方針5 戦略的なマーケティングに基づき、山村の価値を高め伝える

意見等の概要	豊田市の考え方
山村地域の魅力・資源について具体例を示すと分かりやすい。具体的には、「自然」、「歴史」、「文物」、「芸能」など地域の人たちが誇りを持って大事にし、自らの言葉で語り、地域の拠り所になっているモノ、コトであるので、そういった記載を加えたらどうか。	いただいた具体例はいずれも大切な山村地域の魅力と考えております。取組方針5に関連する施策として「マーケティング戦略に基づく山村の価値の磨き上げ」の取組を位置付けて、ターゲットに合わせた具体的な価値（押しポイント）を整理していきます。